

釣れ釣れなるままに

2018年思い出の釣行記 PART. 1-2

オーストラリア旅行 鹿島釣狂

【オーストラリアの魚たちと戯れる】

2月14日～2月20日までオーストラリア旅行に行ってきた。退職してからハワイ、イタリアに続く3度目の海外旅行である。私は特にグリーン島観光&シュノーケリングが一番楽しかった。



緑の宝石と形容されるグリーン島はケアンズ沖合27kmに浮かぶ。船が着いて栈橋の下を覗くと早速、色鮮やかな魚たちが出迎えてくれた。そして、シュノーケリングである。



既にホテルを出たときから海水パンツをはいていたので上を脱ぐだけである。ビーチチェアが並んでいたのもので其処に荷物を置いた。しかし、そのチェアは有料であることを説明に来た人がいたので、慌てて隣の草わらの上に荷物を置いて、渚に立った。海水は温水プールのように温かく、苦もなく入っていくことが出来た。女房はグラスボトムボートを楽しみにいってしまった。



まずは岸近くでシュノーケリングの練習をした。イワシだろうか？渚では小



魚が群れて泳いでいた。シュノーケリングについては何の問題もないようだ。少し深みに向かって泳いで行くと大きな魚が群れをなして泳いでいる。角の生えた50cmほどの魚だ。角鯛とかテングハギいわれている魚のようだ。

エイが泳いでいた。海底に何か獲物を見つけたのか、其処に留まりエサをあさっていた。ナポレオンフィッシュが近づいてきた。こんな岸際にでもこのような魚が見られるのだ。



ベラの仲間だろうか南国を思わせる色鮮やかな魚だ。



ロウニンアジ (GT) が私の方に向かって優々と泳いでくる。南海の釣りのターゲットだ。沖縄でもこの魚がホッパーなどによるルアーフィッシングの対象魚として搭乗してくるが、このパワーとスピードで珊瑚礁による根擦れを起こし、釣り上げるのは至難の技とされているのだ。プロフィッシャーマンである村越正海がこの魚と対峙して道糸を切

られて悔しがる姿と、巨体を抱えて得意そうな顔をしている姿がダブって見えるようだった。



私は、上の写真のような3カ所に設置された浮子で休みを取りながら何度もシュノーケリングを楽しんでいた。潮が左から右の方に流れているので、安全を期して一番左の浮子に掴まるが多かった。そこへ、私達と同じツアーで新婚旅行にきている若夫婦が浮子に掴まっていた。そのご夫婦と見つけた魚について話し込んでいると「亀だ!」と叫ぶ声が聞こえてきた。それとばかりに潜ってみ

ると、まさしく亀（色は赤茶けているがおそらくアオウミガメだろう）である。いつまでも見続けていたいと、渚の方へ追い込むように泳いで行くと、しばらく付き合うことが出来た。しかし、何かに驚いたのか急に進路を変えるとスピードを上げて沖の方へと泳いでいって見えなくなってしまった。1時間ほどを楽しんだらうか。まだ名残惜しいが海から上がることにした。

砂浜を歩いて行くと私達と同じツアーに一人で参加されている方が、膝の所を押さえてうずくまっている。なんでも彼が泳いでいるときに膝の所に強い痛みが走ったようだ。おそらくクラゲに刺されてしまったのだろうと途方に暮れている。私が泳いでいるときにも1匹のクラゲが漂っていたのでそれを避けるように注意していたのだ。傷口を見せてもら

うと、赤く腫れておりそれがクラゲによるものか、珊瑚にぶつけて出来てしまったものかは判然としない。添乗員さんに知らせて現地の人に応急措置をしてもらったが、再度、船の中でもクルーに患部を冷やしてもらって事なきを得たようだった。

この御仁には、何かとお騒がせなことがあった。グリーン島に向かうクルーズの中でも泰然と眠り込んでいて、シュノーケリングの道具などを貸し出してもらう時に、私が起こしてあげなければならなかったり、その道具を忘れて船から下りようとしたので声を掛けなければならなかったりしたのだ。また、極めつきは、空港に着いてから財布を忘れてしまったことに気付き、ホテルの車で空港まで届けてもらったことだ。バスへの乗り遅れも多々あり、添乗員さんが何かと気を遣っていたのだ。

女房の方は、グラスボトムボートを充分楽しんだような話しをしてきた。特に撒き餌に大きな魚が飛沫を上げながら寄ってきたことが印象に残っているようだった。

真実はどうなのだろう。女房がビデオで魚たちを撮り貯めてきたというから、そのビデオを見てみなければならぬ。おそらくボートに揺られながらの夢見心地でピンボケの画像ばかりが映っているのではなかろうか。





「世界遺産」オペラハウスはやはり見応えがあった。



ゴールドコーストでは憧れのコアラを抱っこした。お尻の毛がごわごわしていて触り心地が良かった。コアラの方は疲れているのか、地面に下りたいような仕草だった。体重は孫娘ぐらいなのかなあ～